

リチウムイオン電池の火災に注意!

皆さんはリチウムイオン電池 (LIB) をご存じでしょうか。LIBは充電が可能な「二次電池」で、スマートフォンやパソコンなどの家電製品に使われていますが、以下のように、充電中や使用中のLIBから出火したことによる火災が増えています。



《火災事例》

【事例1：スマートフォン】

階段で足を滑らせてしりもちをつき、ズボンの後ろポケットに入れていたスマートフォンのバッテリーパックが破損したことでショートを起こし、衣類に着火して火傷した。



火災事例の動画

【事例2：携帯用扇風機】

携帯用扇風機を落下させたことにより、バッテリー内部に強い衝撃が加わったことで異常発熱につながり出火した。

【事例3：ごみ収集車】

一般ごみと一緒に捨てられたLIBがゴミ収集車内で押しつぶされて出火した。

救急出場状況

(5月分)

労働災害	2件(0人)
一般負傷	1件(1人)
急病	5件(4人)
5月計	8件(5人)
累計	81件(73人)
※()内は搬送人員	

★気を付けるポイント★

1. 衝撃を与えない。
2. リコール対象製品は使用を中止する。(不具合が生じていなくても。)
3. 製造事業者、輸入事業者や販売事業者が確かな製品を購入する。
4. 非純正品のバッテリーの取り扱いに注意する。
5. 分解や改造などをしない。
6. 埋立ごみなどと一緒に捨てない。

野生動物対策の状況

農林課林業振興室
野生鳥獣専門員
56 - 2174

エゾシカ

捕獲個体の調査結果から、すでに多くのメスが出産を終えていると思われます。この時期の子シカはまだ小さく、草に隠れてか、姿を見ることはまれです。5月の駆除は48頭とやや不振ですが、6月は堅調です。

ヒグマ

6月6日、二ニウの国道名石橋の下の河原で、単独行動の釣り人が背後からヒグマの異常接近を受ける事案がありました。現場は見通しがよく、釣り人が停止中であつたことから、このヒグマが意図的に人に近づいたとみられます。ヒグマは釣り竿で叩か

れてその場を去り、釣り人にけがはなかったものの、際どい状況でした。村の専門員が対応に当たり、発生から2時間後に近くの林内で、体格や毛色が情報と合致するヒグマを発見しました。同じ個体である確証はなく、また異常接近の理由も不明でしたが、大事を取り、その場で捕獲しました。現場周辺では依然、当初個体の生存ほか危険要因が残る可能性があるため、注意看板を配置し、警戒を続けています。村内では他にも対応中の案件があり、中トマムでは追い払いを実施しています。これら詳細は広報紙の折り込み資料や村ホームページをご覧ください。

一般にヒグマ回避手法の多くは、ヒグマが逃げることに期待を前提としていますが、逃げずに人を攻撃することもまれにあり、クマ撃退スプレー等の普及も課題の一つと考えています。



6月6日捕獲個体



中トマム(6月16日)



国道名石橋の発生現場(6月6日)



地域とともに

コミュニティ・スクール情報
～占冠中央小学校～
教育委員会学校教育担当 56 - 2182

小中一貫校としての取り組みを推進する

昨年度まで、コロナ禍ではありましたが、占冠中央小と占冠中の小中一貫校としての連携事業について熟議を重ね推進してまいりました。

今年度は、昨年度まで計画していた合同運動会を実施しました。計画や準備段階では、ICTを活用した連携を行ったり、小中合同練習や合同係会議を行ったりしながら、本番に向けて児童・生徒が安心して力を発揮できるよう手探りではありましたが進めることができました。なんとと言っても楽しそうな笑顔で活動する小学生の姿とお兄さんお姉さんらしくテキパキと行動する中学生の姿が見られ、合同で実施する意義が子どもたちにも伝わりそれぞれ成長できた運動会になったと考えています。当然、課題もありますが学校運営協議会をはじめ、保護者や地域の皆さまのアドバイスを参考により良いものになるよう今後改善していきたいと考えています。



小学校と中学校の乗り入れ授業ではさらにレベルアップし連携を展開しています。中学校から小学校へ乗り入れるメリットとしては、教科担任制である中学校の専門性を生かすことであり、児童にとっては学ぶ楽しさを味わうことができる機会となります。また、小学校教諭が中学校で教えることでは、アクティブラーニングの視点で、体験的に学ぶ手法を学習に意図的に散りばめ、分かる授業、知る喜び、ひもとく面白さを存分に味わわせる学習づくりが期待できます。これにより、中一ギャップと言われる小中接続の課題緩和をねらうとともに、小中9年間の学びの積み上げを図ります。

現在は、小学校から中学校全学年の音楽、中学校から5・6年理科、3・4・5・6年体育をそれぞれ週2～3時間程度の乗り入れを実施しており、子どもたちだけでなく、教職員の意識改革にもつながっています。

今年度は、小中一貫ランドデザインを作成しました。これにより小中9年間の児童・生徒のめざす姿の実現に向けて、より綿密で、滑らかな連携の在り方を追究していきたいと考えています。

こちら駐在所です

占冠駐在所
56 - 2110

飲酒運転の根絶 ～「何で来た？」 乾杯前の合言葉～

飲酒運転は重大な犯罪!

飲酒は車の安全な運転に必要な運動機能や判断能力の低下につながる重大な交通事故を発生させるリスクが高くなります。「少しの距離だから」「事故を起こさなければ」という身勝手な甘い考えが悲惨な事故を招くこととなります。

飲酒運転による交通事故を起こした場合、被害者や自分自身およびその家族にも精神的・経済的に大きな影響を与える結果となり、その代償は計り知れません。

飲酒運転をなくすためにも、ドライバー自身が飲酒運転は絶対にしないという規範意識を持つことはもちろん、道民一人一人が飲酒運転を許さない環境をつくるのが重要です。



7月13日は「飲酒運転根絶の日」

「7月13日」は、平成26年に小樽市の海水浴場付近において、飲酒運転により4人が死傷した交通事故が発生した日であり、北海道飲酒運転根絶条例により「飲酒運転根絶の日」と定められています。